

日本人中医診療記

その1

天津中医薬大学 柴山周乃



このたびは日本中医学会設立、誠におめでとうございます。心よりお慶び申し上げます。11年間、中国で中医学に携わってきた私にとり、日本中医学会の設立は長年の夢でもありましたので、とても嬉しく思っています。今後、中国の中医学現場から up to date な生きた情報を色々お伝えしていきたいと思います。宜しく願い致します。

◆
初めに少し自己紹介をさせていただきます。私は1999年に天津中医薬大学（当時は天津中医学院）に入学、5年の本科を終え、その後修士課程（3年）、博士課程（3年）に進み、昨年7月に博士課程を修業しました。修士課程から中医内科学を専攻、博士課程では中国工程院院士でもある天津中医薬大学・張伯礼学長に師事し、心脳血管疾患を主に研究して参りました。卒業後は引き続き学長とともに特別外来で診察をしながら、8年かかる修士を7年で取得させる7年制中国人学生への講義を受け持っています。

◆
第1回目の今回は、日常の中医診察についてご紹介したいと思います。中国には西洋医学の病院と中国医学の病院がありますが、現在では中国医学の病院でもほとんどが西洋医学を取り入れ、中西医統合治

療を行っています。血液検査はもちろんのこと、MRI、CT、エコー検査などの検査結果を参考に中国医学の特色である弁証論治を行い、中薬処方を行っています。もちろん必要に応じ、西洋薬も処方します。

天津中医薬大学には第一付属病院、第二付属病院など6つの付属病院がありますが、例えば、1954年に創設された天津中医薬大学第一付属病院には現在、1,700人以上の職員が医療に従事し、1日平均1,700人の入院患者、また1日平均7,000人の外来患者が診療を受けています。次に外来での診察手順を簡単にご紹介します。

1. 受付：患者様は、病院に着いたら先ず受付窓口へ行き希望の受診科（循環器内科、血液内科、肝胆科、心療内科、老年病科、針灸科、ペインクリニックなど計31の専門外来科があります）と医師（主任医師、副主任医師、主治医師のいずれかを指定、職位により診察料が異なります）を選び手続きを済ませ、受付表を持って診察室へ向かいます。

2. 診察：薬の処方はずべてコンピューターで管理していますが、カルテは患者様ご自身が管理し、診察を受けるたびに毎回持参します。医師はカルテに初診の方には検査データも含め極力詳しく、再診の方には病状の変化を手書きで毎回書き込みます。必要に応じ、血液検査、エコー検査、CT、MRI等の検査もしていただきます。

3. 中薬処方：患者様の主訴、検査データをもとに弁証論治し、5日～1週間分の中薬（生薬）を処方します。病状により降圧剤、糖尿病薬、抗凝血薬などの西洋薬も処方します。病状が落ち着いてきた患者様には本人の希望に応じ、中薬処方をもとに病院内の薬局で蜜丸薬、水丸薬に加工したものを服用してもらうこともあります。暑い



夏場は、加工剤を好まれる患者様が多いようです。また、病院で独自に研究製剤した中成薬の処方も行っています。

4. 薬局：診察室でコンピューターに入力された処方データはそのまま薬局に送られますので、患者様は調剤が終わり番号が表示されるまで薬局前で待ちます。自宅で中薬を煎じるのが難しい患者様には煎薬の代行も行い、1回分ずつハードビニールバッグに密封パックしお渡ししています。服用前にパックごと湯煎にして飲むという簡易さが好評を得ています。病院では、1日平均20tもの生薬が処方されています。

5. 国医堂：特別外来（中医内科，中医婦人科，中医小児科，腫瘍科，針灸科等）で，中医スペシャリストが完全予約制（各自インターネット予約）で診察を行っています。特別料金制です。

病棟では西洋薬の輸液，経口剤のほか，中薬注射剤も使用，またほとんどの科で積極的に針灸治療を併用，中西統合治療を行っています。

以上がおおよその中医の診察手順となりますが，私が診察を受け持っている張伯礼学長の特別外来には心脳血管疾患以外に，消化器科，婦人科，小児科，心療内科疾患等の患者様，また年齢層も3歳～95歳までとかなり幅広く，中薬処方の後は「医食同源」，季節，病状に合わせて食生活のアドバイスをし，脳疾患後遺症の方には，運動療法，マッサージ手法のアドバイスなども行っています。

今回は「中国の中医学教育」についてお話しさせていただく予定です。



プロフィール

柴山周乃（しばやま・ちかの）

愛知県名古屋出身

1996年 日本航空株式会社・国際客室乗員部退社

1999年 天津中医学院（現天津中医薬大学）本科入学

2006年 中華人民共和国・中医医師資格取得

2010年7月 天津中医薬大学・中医内科学博士課程卒業

修士課程は天津中医薬大学第二付属病院・循環器内科杜武勳教授に師事，「糖尿病性心疾患の中医病機メカニズム及び臨床治療」を研究。

博士課程は天津中医薬大学・張伯礼学長に師事，「中医および漢方医学による心疾患・脳血管疾患治療」を研究。現在は，引き続き張伯礼学長に師事し外来で診察および中国人学生の講義を担当。

写真 左ページ左上と右：国医堂入口，左下：天津中医薬大学全景。右ページ：張伯礼学長と筆者。